

3. リスク情報利用拡大における障害
セッション3 安全目標を確立する
—規制を超えた安全性向上における
安全目標の役割は何か？—

座長 山本 章夫

名古屋大学大学院工学研究科

総合エネルギー工学専攻 教授

2024年11月13日

原子力リスク研究センター: 2024年 ワークショップ
—意思決定におけるリスク情報の活用: 利点と障害—

セッション3 安全目標を確立する

—規制を超えた安全性向上における安全目標の役割は何か？—

➤ 背景

- 米国では、リスク情報を用いて安全上重要な点に資源を投入することで、パフォーマンス(トラブル件数と稼働率、定検日数、被ばく、労災など)改善につなげ、高いパフォーマンスを維持している。
- 国内ではリスク情報活用が関係者の期待するレベルに必ずしも届いていないが、JANSIがけん引するエクセレンス追求の取り組みも活用して事業者は安全性向上に取り組んでいる。
- 原子力の分野における「安全目標」「性能目標」については、国内ではその策定に向け、原子力安全委員会、原子力規制委員会、関係学会で検討がなされてきた。また、NRAでの検討・議論において、旧原子力安全委員会で検討結果は議論の基礎となること、1F事故を踏まえて環境汚染の視点からの指標を追加すべきであることなどが示されたが、「安全目標」「性能目標」が正式な形(具体的な結論)での策定には至っていない。
- 意思決定において、PRAから得られた情報は参照する情報のうちの一つであり、PRAからの情報のみで意思決定は行われぬ。

セッション3 安全目標を確立する

—規制を超えた安全性向上における安全目標の役割は何か？—

➤ 課題認識とセッションの目的

- 「どの程度リスクが小さければ安全といえるのか」へのリスク情報を活用した一つの答えが「安全目標」で、その代替の尺度が「性能目標」である。
- 安全性向上を実現するために効果的で整合性の取れた規制・リスク管理が必要であり、そのためには「性能目標」等の定量的な指標が重要ではないか。
- 「安全目標」「性能目標」はリスク管理のためにリスクの抑制水準を示すものであるが、これを達成すればリスク低減のための活動を不要とするものではない。
- 「安全目標」「性能目標」をリスク情報活用にどのように適用するか、関係者間で共有されているか。
- 今後の規制分野も含めたリスク情報適用範囲の拡大に向けた、「安全目標」「性能目標」の確立に関する課題・障害は何かを認識する。

セッション3 安全目標を確立する

—規制を超えた安全性向上における安全目標の役割は何か?—

➤ 本セッションの構成

- a. 導入(座長):5分
- b-1. 日本における安全目標の現状と今後への期待
(原子力安全推進協会/日本原子力学会リスク部会
成宮 祥介):20分
- b-2. リスク情報を活用した安全性向上による運転のエクセレンス追求
(パシフィック・ガス・アンド・エレクトリックカンパニー/NRRC
モーリン・ザワリック):20分
- b-3. パフォーマンス改善におけるエクセレンス追求
(原子力安全推進協会 尾野 昌之):20分
- c. 質疑応答と議論:50分